

朝会講話

9月20日に開幕したラグビーワールドカップ。日本代表の活躍は、感動の中に、いろいろ学ぶこともあります。

日曜日のサモア戦についての朝日新聞のスポーツ面のコラムがとても印象に残っているので紹介します。

見出しは「1、2メートルの前進 勝利につなげた」です。

日本の勝因は、一つのプレーで少しの努力を惜しまないことだった。倒されても「ノット・リリース・ザ・ボール」の反則を取られない範囲で体をくねらせながら前を出て、球を離す。ちょっとでも味方に有利な球を、という頑張りが見える。

距離にしてみれば、わずか1、2メートル程度の前進。しかし、相手防御の「オフサイドライン」を押し込むことができる。日本は前を出ながら、相手は下がりながらのプレーとなる。華やかなトライの陰には、そんな地味な「アシスト」がある。

このコラム、皆さんはどう感じましたか？

私は、次のようなことを思いました。

一つは

「地味な努力の積み重ねがあって結果は得られるんだなぁ」

もう一つは

「もうちょっと頑張ってみるといふ最後のひと踏ん張りってやっぱり大事なんだ」

スポーツに限らず、勉強においても、更にはいかなる目標であっても、何かをやり遂げるために共通する重要な要因・ファクターだと思いませんか。

日本代表の勝因、皆さんも目標達成の勝因にしましょう。